

(様式 1)

県政調査計画書

令和7年2月4日

神奈川県議会議員 柳下 剛 殿

会派名 公明党神奈川県議会議員団

団長名 谷口 かずふみ

県政調査を次のとおり計画しましたので、よろしくお取り計らいください。

1 調査議員	(調査団長) 谷口 かずふみ (団 員) 鈴木 ひでし 小野寺 慎一郎 亀井 たかつぐ おだ 幸子
2 調査目的	精神疾患等を抱えた当事者の「当事者研究」の事例、ドローンの活用事例、そしてバイオガス発電の取組及びCCS実証実験の取組事例を調査することにより、本県における今後の施策調査の参考にする。
3 調査期間	令和7年3月26日 ～ 令和7年3月28日
4 調査地	北海道
5 調査項目	(1) 当事者研究等について(浦河べてるの家) 浦河べてるの家は北海道浦河町にある精神障害等を抱えた当事者の地域活動拠点であるが、「当事者研究」の理念を掲げ、さまざまな精神疾患を経験した当事者が、医師や専門家にすべてを委ねるのではなく、自分自身が「苦勞の主人公」として自分の生きづらさを研究し、仲間とともに「自分を助けていく」試みを実践している。 こうした取組を調査することにより、障害者福祉施策の参考とする。 (2) ドローンの利活用について((株)ノースドローンショー) 上士幌町では様々な分野でドローンが活用されており、ドローンを使用した配送や、中高生向けのドローン教育などに力を入れている。



	こうした取組を調査することにより、ドローンを活用した県の施策の参考とする。 (3) バイオガス発電の取組について（(株)上士幌町資源循環センター） 上士幌町で人口の約8倍も飼育されている牛の糞尿を活用し、バイオガスプラントと呼ばれる施設で家畜糞尿を発酵させ、発生したバイオガスを使い、発電機によって電気を生み出すバイオガス発電の取組を実施している。 こうした取組を調査することにより、循環型社会施策の参考とする。 (4) CCS実証実験について（苫小牧CCS実証試験センター） CCSとは、火力発電所や工場などから排出されるガスの中からCO₂のみを回収し、地下深くの安定した地層の中に貯留する技術をいい、苫小牧では、日本初となるCCSの大規模実証試験が国家プロジェクトとして実施されている。 このような取組を調査し、本県の脱炭素施策の参考とする。										
6 経費の概算額	<table> <tr> <td>一人当たりの議員経費…</td><td>239,042円</td></tr> <tr> <td>① 交通費 …</td><td>169,382円</td></tr> <tr> <td>② 宿泊費 …</td><td>33,000円</td></tr> <tr> <td>③ 雑費 …</td><td>360円</td></tr> <tr> <td>④ 視察料 …</td><td>36,300円</td></tr> </table>	一人当たりの議員経費…	239,042円	① 交通費 …	169,382円	② 宿泊費 …	33,000円	③ 雑費 …	360円	④ 視察料 …	36,300円
一人当たりの議員経費…	239,042円										
① 交通費 …	169,382円										
② 宿泊費 …	33,000円										
③ 雑費 …	360円										
④ 視察料 …	36,300円										

* 日程表を添付する。

県政調査日程表

日	月日(曜)	調査地	現地時間	交通機関	調査箇所及び調査内容
1	3月26日 (水)		午前	航空機等	移動 (羽田空港→新千歳空港)
		■北海道浦河郡 浦河町	午後	車両	■浦河べてるの家 ・当事者研究等について
2	3月27日 (木)	■北海道上士幌 町	午前	車両	■(株)ノースドローンショー ・ドローンの利活用について
		■北海道上士幌 町	午後	車両	■(株)上士幌町資源循環センタ ー ・バイオガス発電の取組につい て
3	3月28日 (金)		午前	車両	移動 (帯広市→苫小牧市)
		■北海道苫小牧 市	午後	車両	■苫小牧 CCS 実証試験センター ・CCS 実証実験について
			〃	航空機等	移動 (新千歳空港→羽田空港)

県政調査計画審査結果

県政調査計画について審査したところ、結果は次のとおりでした。

調査実施議員名	(調査団長) 谷口 かずふみ
	(団 員) 鈴木 ひでし 小野寺 慎一郎 亀井 たかつぐ おだ 幸子

1 要領 2 (1) の基準への適否

区 分	調査の基準	計画の内容	適否
① 調 査 経 費	議員1人当たり100万円以内	議員1人当たりの経費は239,042円であり、基準を満たしている。	適
② 調 査 箇 所	1日につき午前及び午後それぞれ1か所以上調査実施 移動日は1か所以上調査実施	移動日については1箇所以上それ以外の日については午前及び午後それぞれ1箇所以上調査を実施する行程となっている。	適

2 調査計画に対する審査所見

区 分	所 見
① 調査の実施が県政課題解決の一助となるか。	(1) 当事者研究等について（浦河べてるの家） 視察先である浦河べてるの家は、「当事者研究」の理念を掲げ、さまざまな精神疾患を経験した当事者が、医師や専門家にすべてを委ねるのではなく、自分自身が「苦勞の主人公」として自分の生きづらさを研究し、仲間とともに「自分を助けていく」試みを実践している。 精神疾患の患者が増加するなか、本県においても支援のための施策は急務となっているところ、浦河べてるの家の取組を視察することは、県政の課題解決の一助となることが認められる。 (2) ドローンの利活用について（株）ノースドローンショー） 視察先である（株）ノースドローンショーは、上士幌町におけるドローン利活用の主要拠点である上士幌イノベーションサイトにおいてドローンを使用した配送や、中高生向けのドローン教育などに力を入れている。 本県においても災害対応等でドローンの活用には力を入れているところ、ドローンの利活用に関

	する取組を視察することにより、県政の課題解決の一助となることが認められる。 (3) バイオガス発電の取組について（(株)上士幌町資源循環センター） 視察先である(株)上士幌町資源循環センターは、上士幌町で人口の約8倍も飼育されている牛の糞尿を活用し、バイオガスプラントと呼ばれる施設で家畜糞尿を発酵させ、発生したバイオガスを使い、発電機によって電気を生み出すバイオガス発電の取組を実施している。本県においても再生可能エネルギー等の導入加速化が急務であることから、同社の取組を視察することにより、県政の課題解決の一助となることが認められる。 (4) CCS 実証実験について（苫小牧 CCS 実証試験センター） 視察先である苫小牧 CCS 実証実験センターは日本初となる CCS の大規模実証試験が国家プロジェクトとして実施されている。本県においても脱炭素社会の実現が急務であるところ、この CCS 実証実験の取組を視察することにより、県政の課題解決の一助となることが認められる。
② 調査の実施時期が時宜を得たものか。	調査対象項目は、いずれも、本県における課題として速やかに取り組むべきものであり、今回の調査を実施することは時宜を得たものであると認められる。
③ 現地に赴かなければ調査目的が達成できないものか。	本県の独自の課題、問題点等について、関係者と直接、質疑を交わすことで、より本質的な施策の目的や解決すべき課題が理解できる。 本調査においては、現地に赴き、具体的かつ詳細に調査することは有効であると認められる。
④ 調査箇所、行程、経費等は妥当なものか。	調査箇所、行程、経費等は県政調査実施要領の基準を満たしており、妥当である。